

## 里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	経済的手法の導入																		
手法名	広葉樹林の循環的利用のための多角的経済化																		
主体	水沢地方森林組合、葛巻町森林組合																		
背景 (地域の課題)	里山で得られていた薪炭は今や需要がなく、その経済価値は失われている。一方、建材としての経済価値が期待され植林が進められた針葉樹は、伐期を迎えた現在、外材輸入の圧力で価格が低迷し、搬出コスト分の採算も合わないため利用が進まず山が放置され、林業も森林環境も全国的に疲弊しているのが現状である。森林組合や林業事業者は経営が厳しく、地域の山林を活かした産業がなりたたなくなりつつある。																		
手法/方策の詳細	<p>植林したスギ用材は、今や40年生の立木一本(0.3立法メートル)850円(約2550円/立法メートル)ほどにまで値下がりしているが、岩手県では、広葉樹の多様な需要をとらえて供給することで、スギ材よりも高い単価で取引し、エネルギーの自給や地場産業を支える素材として経済価値を維持している。</p> <p>岩手県の森林は6割が広葉樹で、素材生産量でも115万立法メートルのうち40万立法メートルが広葉樹である。広葉樹のうち約9割は製紙用チップ、それ以外は、椎茸栽培用、木炭用、棚薪などに使用している。</p> <p>葛巻森林組合では、広葉樹をシイタケ原木、木炭用原木、薪等とすることで多角化をはかっている。パルプ用材とするよりも価格が高く、利用量は少ないが収益上は大きな効果を持っている。</p> <p>水沢地方森林組合では、シイタケ原木の生産性向上を主たる目的として、コナラ造林を事業として実施しており、1985年から約50ヘクタール造成している。毎年1～2ヘクタールぐらいを使うつもりで計画し、1回目の伐採以降は萌芽更新で伝統的な技術をいかしている。スギの立木価格が100～150万円/haであるのに対し、ホダ木原木では195万円/haを見込むことができ、コストも削減されるため、経済効果は大きい。</p> <p>また岩手では、薪ストーブの使用率が高く、自給的な薪炭利用もまだ比較的多い。時間軸での経済的価値といった視点から、地域資源を循環的・持続的に利用することも重要である。</p>																		
手法・技術的視点	椎茸ホダ木生産に薪炭林管理(萌芽更新)の手法を用い、施業コストを削減する。																		
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="background-color: #e0e0e0; border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">コナラ純林の造成：水沢地方森林組合の事例</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ シイタケ原木生産を目的としたコナラ造林           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1985年からスタート</li> <li>・約50ha造成</li> </ul> </li> <li>■ コナラの純林が目標           <ul style="list-style-type: none"> <li>・シイタケ原木の生産性の向上</li> <li>・1haから15,000本が目標＝195万円の売り上げを期待(スギの立木価格は100～150万円/ha)</li> </ul> </li> <li>■ 保育経費の節減           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目の造林経費約70万円のみ</li> <li>・1回目の伐採以降は萌芽更新</li> <li>・スギ人工林を補完する新たな事業</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #e0e0e0; border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">広葉樹の多角販売－葛巻町森林組合の事例</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">林産事業</th> <th style="text-align: right;">10,118m<sup>3</sup></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カラマツ一般用材</td> <td style="text-align: right;">6,470m<sup>3</sup></td> <td style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px;">10,000円/トン前後 約2,800万円</td> </tr> <tr> <td>パルプ材</td> <td style="text-align: right;">2,798m<sup>3</sup></td> <td style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px;">30,000本@130円 約390万円</td> </tr> <tr> <td>シイタケ原木</td> <td style="text-align: right;">182m<sup>3</sup></td> <td></td> </tr> <tr> <td>木炭用原木</td> <td style="text-align: right;">501m<sup>3</sup></td> <td style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px;">13,000円/m<sup>3</sup> 約650万円</td> </tr> <tr> <td>棚薪</td> <td style="text-align: right;">167m<sup>3</sup></td> <td style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px;">17,000円/m<sup>3</sup> 約280万円</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> </div>		林産事業	10,118m <sup>3</sup>		カラマツ一般用材	6,470m <sup>3</sup>	10,000円/トン前後 約2,800万円	パルプ材	2,798m <sup>3</sup>	30,000本@130円 約390万円	シイタケ原木	182m <sup>3</sup>		木炭用原木	501m <sup>3</sup>	13,000円/m <sup>3</sup> 約650万円	棚薪	167m <sup>3</sup>	17,000円/m <sup>3</sup> 約280万円
林産事業	10,118m <sup>3</sup>																		
カラマツ一般用材	6,470m <sup>3</sup>	10,000円/トン前後 約2,800万円																	
パルプ材	2,798m <sup>3</sup>	30,000本@130円 約390万円																	
シイタケ原木	182m <sup>3</sup>																		
木炭用原木	501m <sup>3</sup>	13,000円/m <sup>3</sup> 約650万円																	
棚薪	167m <sup>3</sup>	17,000円/m <sup>3</sup> 約280万円																	
参考資料	里なび研修会in山形 伊藤幸男 岩手大学助教、岩手・木質バイオマス研究会会長																		